

朝霧中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

資料2

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評	
朝霧中学校区	「認知症です。」と伝えるまちづくり	1.認知症の正しい理解の啓発⇒キャラバンメイトやシルバーサポーターと協働し、地域住民に対して実施した。	認知症	・朝霧校区の人権啓発推進員と連携し小地域単位での認知症学習会を開催。高齢化率が高い、センターに相談が多いエリアを重点地域と考え、松が丘1丁目、2丁目、4丁目、5丁目、朝霧台、中朝霧丘、東朝霧丘、大蔵谷清水、朝霧3丁目地域を対象に10回、実施した。 ・松が丘小学校・朝霧小学校でオレンジサポーター養成講座を各1回開催した。	自分自身の認知症予防には関心があがるが、認知症である本人やその家族に対する関心は低いことが分かった。	・住民が認知症を正しく理解し、主体的にあいさつ、声掛け、オレンジサポーター養成講座等の認知症理解を進める活動に参加する。 ・若い世代が認知症のことを理解し、地域の高齢者の生活に関心を持ち、あいさつ、声掛けが住民同士で行える。	・認知症予防だけでなく、認知症ご本人や家族の思いを知る講座を開催し、自分事として考える機会を増やす。 ・小学校と連携し子ども向けのオレンジサポーター養成講座を開催することで、あわせて保護者世代への啓発を行う。	継続	引き続き重点地区を中心に地域と関係性を築きながら、認知症学習会、認知症サポーター養成講座を開催してください。可能であれば若い世代も含めて開催してください。	
		2.上記の取り組みの際に早期発見・予防の重要性を伝えた。	医療介護連携地域ケア会議 包括的継続的	・令和5年10月28日、松っ子まつりでキャラバンメイト・シルバーサポーターが協働し小学生や保護者を対象として認知症啓発活動を行った。令和5年7月以降、キャラバンメイト・シルバーサポーターが毎月1回、松っ子まつりでの認知症啓発の話し合いをすることでチームとしてのまとまりができた。	・キャラバンメイト・シルバーサポーターが積極的に認知症啓発活動に関わって頂けることが分かった。キャラバンメイト・シルバーサポーターが主体的に活発になる機会をつくることで、より活動的になるのではと考える。	・キャラバンメイト・シルバーサポーターを中心とした「チームオレンジ」の立ち上げと自立した活動ができる。	・キャラバンメイト・シルバーサポーターの主体的な活動を後方支援、住民自身が認知症理解を発信できるようになる。	継続	キャラバンメイト・シルバーサポーターが自主的な活動へ移行していると松っ子まつりで実感しました。完全に移行することは難しいと思いますが参加メンバーに伴走しながら活動支援を行っていただければと思います。	
		3.住民参加の地域ケア個別会議の実施	地域ケア会議	地域ケア個別会議は未開催。	専門職と住民の連携ができており、今年度は開催に至らなかった。			民生児童委員より問題の小さな段階から連絡があり、対応ができています。	中止	
		4.成年後見制度・高齢者虐待予防の周知	権利擁護	令和5年11月27日開催の民生児童委員・介護支援専門員との交流会で成年後見・権利擁護について周知を行った。	権利擁護について、身近にあることとして意識は高まったが、高齢者虐待の通報に抵抗がある専門職もいることがわかった。	民生児童委員・住民・介護支援専門員が連携して住民の変化に気づき必要時にセンター等に相談ができる。	居宅介護支援事業所の巡回を通して出た意見をもとに介護支援専門員や介護サービス事業者等を対象に勉強会を開催する。	継続	専門職や民生児童委員だけが権利擁護を担うのではなく地域住民も一緒に地域住民の異変に気づき、声をかけあえることを目標に様々な取組みを検討して下さい。	
		5.消費者被害の予防啓発	権利擁護	・地域の自治会長が集まる会合や地域サロン、自主活動グループにセンターが出席、消費者被害予防啓発チラシを配付し啓発を行った。	・消費者被害については、まちづくり協議会の役員会、理事会で毎月防犯協会からも情報提供されており、住民の関心は高い。	・地域住民が消費者被害に遭わないように、地域住民同士で声をかけあったり、地域住民が被害にあったと思われるときに速やかに相談窓口につながるができる。	啓発の出来ていない高齢化率が高い地区を対象に啓発活動を行う。	継続		
		6.相談窓口の周知継続 ⇒地域のイベントや会議に出席した際や上記の取り組みの際に啓発を行った。また、年2回発行のセンター広報紙でセンターの役割や取組の広報を行った。	総合相談	・地域のサロンや自主活動グループ、老年クラブ、敬老会などの集いの場に出席、センター業務を説明、広報を行った。 ・個別事例訪問時に広報紙を配布し、センターの役割を周知した。	・センターを知っている住民が増えているが、どのような相談ができるのかがわかりにくいとの声を聞いた。	・住民が生活の困りごとがあったときに、適切な相談窓口につながる。	・引き続き啓発活動を行う ・自治会長へのセンターの役割を周知する。	継続	広報紙を活用しセンターの役割・取組等の周知をお願いします。	

朝霧中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

資料2

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
県営松が丘自治会、明舞南県住自治会	『ハンドインハンド』	1.明舞南県住自治会 ・個別訪問でアンケートをとること で困りごとやニーズを住民自身 が知ることができる。 2.関係形成のために健康教室やイ ベントを開催し、孤立予防をす る。	生活支援 一般介護 予防 認知症 一般介護 予防 権利擁護	①明舞南県住の建て替え工事が完 了し10月中に住民が入居した。住 民同士の関係構築が出来ていない 状況でアンケート調査は時期尚早 と判断。住民のキーパーソンとの 関係構築のため、センター地区担 当と住民のキーパーソンで座談会 を開催、地域で気になることやつ ながりづくりについての思いをヒ アリングした。自治会長にセン ターとの交流を打診し、1月23日 に新しい集会所で座談会を開催し た。	明舞南県住の高齢化が進む中で 新旧の住民の新しいコミュニ ティづくりが必要と考えるが、 センター主導で住民への個別ア ンケートはハードルが高く、住 民の抵抗感があると思われた。 座談会の中でもセンターの役割 の周知が話題となっていた。建 替え前の集会所の時から続いて いる集いの場に訪問、センター の役割を周知することが必要で あるとわかった。	・新旧住民が顔の見える関係が 出来、生活の困りごとをお互い に支え合うことができる。 ・困りごとがあるときに住民同 士で適切な相談窓口につなぐこ とができる。	・住民のキーパーソン と話し合いを進めなが ら、すでにある集いの 場を活用した出前講座 を開催し、新旧住民の 交流のきっかけとなる 場を作る。 ・センターの役割を周 知する。	継続	高齢化率の高い明舞南県住。困りごとがあ るときに相談だけではなく、地域住民がお 互い異変に気づき合い、必要な支援が受け られるようにつながっていったらと思いま す。
		2.県営松が丘住宅自治会 ・住民同士のつながりの場を設 ける		②令和5年4月以降、「お茶会」サ ロンを自治会が立ち上げた。月曜 日：おしゃべり会と水曜日：カラ オケを開催する。	・サロンは出来たが、参加者が 固定している。住民が気になる 人に声掛けしても参加しておら ず、センターによる集いの場の ニーズ把握が不十分であること がわかった。	・困りごとがあるときは住民同 士で相談、助け合える関係がで きる。 ・住民が困った時に適切な相談 窓口につなぐことができる。	・地域の会合等でサロ ンの状況を把握し、情 報収集を継続してい く。 ・住民よりサロン等の 情報を求められた際、 情報提供を行う。	その他	住民の主体性を尊重しつつ、必要に応じて 支援する等、対応していただければと思い ます。

大蔵中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
大蔵中学校区	みんなので学ぼうプロジェクト 認知症プロジェクト	<p>認知症啓発について、自治会、サロン等にアプローチを行い、オレンジサポーター養成講座、認知症予防講座などを開催した。</p> <p>シルバーサポーターやキャラバンメイトが主体的にオレンジサポーター養成講座、認知症啓発等を行うようサポートを行った。</p>	<p>医療介護連携</p> <p>権利擁護</p> <p>認知症</p> <p>総合相談</p> <p>地域ケア会議</p> <p>生活支援体制整備</p>	<p>太寺4丁目自治会で4回、東人丸町(にじの会)で1回、オレンジサポーター養成講座開催の依頼があり実施した。</p> <p>松が丘小学校でのオレンジサポーター養成講座に、大蔵地区のシルバーサポーターも参加。シルバーサポーターとキャラバンメイト間で自発的に交流を行うことができた。</p>	<p>にじの会オレンジサポーター養成講座終了後、参加者より「自分も高齢のため他の人の支援ができると思えない。荷が重い」とオレンジリングとバッジを受け取れないという申し出があった。</p> <p>オレンジサポーターは認知症の理解者であり、主体的に何かをしないという訳ではないと説明し受け取って頂いたが、今後は参加者の心理的負担にならない説明も心掛ける必要がある。</p>	<p>地域住民レベルで、自らが認知症当事者のサポーターであるという意識が浸透する。</p> <p>今後オレンジサポーターが若い世代にも広がり、認知症にやさしいまちになる。</p> <p>シルバーサポーター、キャラバンメイトが主体的にオレンジサポーター養成講座の開催や自主的な活動ができるようになる。</p>	<p>太寺4丁目自治会会長には、全世帯の半数の方にオレンジサポーターになっていただきたいという思いがある。今後も継続して太寺4丁目自治会にアプローチを行う。</p> <p>認知症の正しい理解を啓発していくため、来年度はチームを立ち上げるための座談会を行う。</p>	<p>継続</p> <p>継続</p>	<p>オレンジサポーター養成講座を中心に認知症への理解を深めると共に認知症に限らず、地域住民の異変に気付き、相談できるところまでつながっていくように、普段から地域住民と専門職が顔の見える関係を構築することに注力していただければと思います。</p> <p>シルバーサポーター、キャラバンメイトについても活動が継続できるように、センターがバックアップの役割を果たしていただければと思います。</p>
	小さな助け合いプロジェクト	<p>圏域の主任介護支援専門員と共に地域課題について、圏域の介護支援専門員と社会福祉士のつながりを強化するための話し合いを行った。</p>	<p>包括的継続的</p> <p>一般介護予防</p> <p>地域ケア会議</p> <p>総合相談</p> <p>生活支援体制整備</p>	<p>センター主催で圏域の介護支援専門員同士の交流会を2回実施、地域課題の聞き取りを行った。また、民生児童委員・介護支援専門員との交流会を実施した。</p> <p>まちなかゾーン会議の取組みで、生活課題の抽出アンケートを実施する予定だったが、まちなかゾーン会議メンバー内でアンケートの目的・内容について共通の認識が持てるようにするため議論を重ねた結果、生活課題抽出アンケートは令和6年度に実施することになった。</p>	<p>介護保険サービスだけでは利用者の生活全体をサポートしていくことが難しい。介護支援専門員と民生児童委員・住民との顔の見える関係づくりが必要である。</p> <p>令和5年度は、坂道の生活のしづらさに焦点を当てていたが、大蔵地区の生活課題を把握する為、65歳以上の高齢者を対象に生活課題抽出アンケートを行うことになった。</p> <p>まちなかゾーン会議では、高齢者の集い場づくりや見守り等の担い手育成が課題ではないかとの意見があったため、生活課題抽出アンケートに反映させていく。</p>	<p>介護支援専門員と民生児童委員、地域のつながりができると共に地域住民、商店等、地域の小さな助け合いを知ることができる。</p> <p>まちなかゾーン会議メンバーとともに生活課題抽出アンケートを実施する。生活課題を把握し、まちなかゾーン会議として、大蔵地区での取り組み等の検討を行う。</p>	<p>居宅介護支援事業所巡回</p> <p>民生児童委員と介護支援専門員との交流会</p> <p>圏域の介護支援専門員の交流会</p> <p>住民、商店、事業所等の見守り体制の現状把握、支援を行う。</p> <p>まちなかゾーン会議での大蔵地区への生活課題抽出アンケート実施、取組の検討を行う。</p>	<p>継続</p> <p>継続</p> <p>継続</p> <p>継続</p> <p>継続</p>	<p>地域住民と居宅介護支援事業所やサービス事業所とのつながりが持て、双方、見守りや支援する力が向上できるよう支援を継続してもらいたいと思います。</p> <p>生活課題を地域住民や専門職と一緒に把握、協議を重ねることにより、地域課題の解決の一助となってもらいたいと思い、継続して取り組んでいただきたいと考えます。</p>

大蔵中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
大蔵中学校区	ストップ閉じ込めプロジェクト	<p>地域に向けた高齢者虐待防止啓発の方法を検討した。</p> <p>住民の集まる場、サロン等で高齢者虐待防止の広報啓発を行った。</p> <p>介護支援専門員、介護サービス事業所と顔の見える関係づくりを行う。令和5年度はサービス事業所を巡回を中心に実施した。</p> <p>専門職の方に対する高齢者虐待対応研修会の実施 上半期の相談内容を踏まえてテーマを決定する。</p> <p>特殊詐欺被害の増加、住民向け、専門職向けに特殊詐欺予防の啓発、令和5年12月には、明石警察と協働し、大蔵コミセン市民講座にて住民に特殊詐欺の現状と予防に関する講座を行った。</p>	<p>権利擁護</p> <p>認知症</p> <p>総合相談</p> <p>包括的継続的</p>	<p>上半期は、センターの主任介護支援専門員が居宅介護支援事業所の巡回を実施した。センター主催で居宅介護支援事業所の交流会を2回実施、困難事例や地域課題の聞き取りを行う。</p> <p>下半期は、センターの社会福祉士が、居宅介護支援事業所への巡回を行い、権利擁護の視点で支援のしづらさ等の聞き取りを行う。</p> <p>民生児童委員と介護支援専門員との交流会にて虐待、後見制度について啓発を実施した。</p> <p>市民講座を大蔵地区で1回実施し、25人が集まった。</p>	<p>居宅介護支援事業所の困難事例や支援のしづらさを聞きとることができた。特に複合多問題(8050等)や、経済的問題事例を複数聞き取る。次年度のセンターの取り組み、研修会に生かしていく。</p> <p>民生児童委員と介護支援専門員との交流会では虐待、後見制度の啓発にとどまっておらず、グループワーク等を通して地域住民の異変に気付く視点を共有していききたい。</p> <p>特殊詐欺予防の啓発について、地域住民・専門職への広報の効果測定が難しい。だが、特殊詐欺被害、未遂も含めて増えており、今後も啓発が必要である。</p>	<p>センター、民生児童委員、専門職と顔の見える関係づくりと共に地域住民の小さな異変に気づき、どのような場面で相談を行ったらいいか共通の視点を持ち、理解できるようにする。</p> <p>民生児童委員と介護支援専門員との交流会では虐待、後見制度の啓発にとどまっておらず、グループワーク等を通して地域住民の異変に気がついたとき、センターに相談をすることができる。</p> <p>特殊詐欺に遭わないように、住民同士で声をかけあったり、被害にあったと思われるときに速やかに相談窓口につなげる。</p>	<p>民生児童委員と介護支援専門員との交流会を行う。</p> <p>居宅介護支援事業所・サービス事業所巡回を行う。</p> <p>居宅介護支援事業所の交流会での勉強会を行う。</p> <p>民生児童委員と介護支援専門員との交流会を行う。</p> <p>ボランティア、地域住民等の集まる場での啓発を行う。</p>	<p>継続</p> <p>継続</p> <p>拡充</p> <p>継続</p>	<p>民生児童委員、地域住民、専門職と顔を合わせ、意見を交換する場、ケース等を通して関係性を築き、小さな異変でも相談してもらえるような関係性づくりに注力していただければと思います。</p>

錦城中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
錦城校区全体	認知症について何かできない会	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になってもならなくても暮らしやすいまちづくりを目指して、認知症について関心がある方が集まり、思いを共有し、(仲間として)つながりを持つことができた。何らかの活動に繋がるような催し「認知症について何かできない会」を計画する。 ・認知症当事者の話を聞くことが、目標達成に向けて有用であることからピアサポーターの活用に至る。 	認知症 総合相談 権利擁護 生活支援体制 整備	<ul style="list-style-type: none"> ・企画会議にキャラバンメイトにも参加してもらうことができ、活躍の場の一つとなった。 ・地域ボランティア活動者同士のつながりの場が提供できた。 ・参加者が認知症当事者の話を聞くことで認知症への理解を深めることができた。 ・当日22名の参加者を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者としての立場で参加する方がほとんどだと思っていたが、当事者とその家族の参加もあった。介護の抱え込みを予防する効果もあったことがわかった。 ・認知症当事者の方の話を聞くことで、自分が認知症と診断されたときの場面をイメージして考えている方が多く、我が事として考えてもらうことにつながった。 ・「認知症について何かできない会」の継続開催を希望される声が多かった。 ・高齢者の参加割合が多かった。暮らしやすいまちづくりのために、もっと幅広い年齢層の住民参加が望ましい。今後の周知及び参加促進への工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに地域において認知症の理解者が増える。 ・幅広い年齢層の人にも「認知症について何かできない会」に参加してもらおう。（特に若年層） ・「認知症について何かできない会」が、もっと参加者の意見を反映した、満足度の高い会になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層が参加しやすいように土曜日に開催をする。 ・事前の打ち合わせにキャラバンメイト、学生（福祉科）などに参加してもらおう。 ・広報の方法を工夫する。（自治会の掲示だけでなく、地域の催しでチラシを配布するなど） ・認知症当事者の方の話を聞く機会を設ける。 	継続	<p>キャラバンメイトの皆さんと企画し、開催することができた。</p> <p>キャラバンメイトを含め参加者は皆それぞれ思いや考えを基に集ってくれた。</p> <p>参加者誰もが主役であるという視点で、“何かできないかい”を合言葉に皆さんといっしょに歩み続けたい。</p>

錦城中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
錦城校区全体	支援者同士の繋がりがプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・10月10日に介護支援専門員と民生児童委員の交流会を開催した。 ・1月11日に明石市東部地区の介護支援専門員と医療機関の交流会を開催した。 ・介護支援専門員と後見支援センター等との連携において、問題を抱えている事例は確認されなかった。 	<p>包括的継続的 生活支援体制整備</p> <p>包括的継続的 医療介護連携</p> <p>包括的継続的 権利擁護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員12名、介護支援専門員16名が参加し、それぞれの活動内容について説明を行い、その後、より良い連携をテーマに意見交換を行い、お互いに連携したいという意向が確認できた。 ・介護支援専門員19名、医療関係者より28名が参加し、低栄養をテーマに小グループで話し合いを行い、各専門職が携わった事例の共有や防止のための取り組みについて活発な意見交換をすることができた。今後も実施してほしいという要望が確認できた。 ・介護支援専門員と後見支援センター等との連携において、問題を抱えている事例は確認されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護の壁があり、本人の同意が取れない場合の連携が難しい現状を共有した。連携した経験のない民生児童委員、介護支援専門員がいることが確認できた。 ・担当者が変わった時や、対象者が入院した際など、連携のタイミングについて共有した。 ・基幹病院と連携する事業として、本部（市域）に取り組みを引き継いだ。 ・介護支援専門員支援を通して、後見支援センターとの連携において問題が確認された際には、取り組み等について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員と介護支援専門員が顔見知りになり、必要な場合に連携できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員と介護支援専門員の交流会を継続して開催する。 	<p>継続</p> <p>市域課題へ</p> <p>終結</p>	<p>交流会は、どのグループも活発に意見交換等が行われていた。交流会で共有した多数の意見は、今後の交流会のテーマとして協議することができる項目があった。次回は前回より多くの参加者を集っていただけるよう準備を進めたい。</p>

衣川中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
王子小学校	あおふれい様地域づくりが	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が認知症についての理解を深めるため講座を行った。 ・民生児童委員やボランティア団体等、センターや他機関との関係づくり（課題等の情報共有）の場を計画した。 	認知症 包括的継続的 生活支援 体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・個人向けオレンジサポーター養成講座を9月15日に実施し、16名の参加があった。 ・介護支援専門員と民生児童委員との交流会実施に向け、民生児童委員協議会会長と打ち合わせを実施。センター圏域での開催ではなく、衣川地区として取り組むことに決まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防や認知症の方への対応について関心が高い意見があった。 ・介護支援専門員と面識のない民生児童委員がいると確認した。 ・多くの民生児童委員に参加してもらうために、交流会について民生児童委員協議会の定例会と同日の実施の提案があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症について理解している人を増やし、認知症の人がサロンや地域の集いの場に可能な限り通い続ける事が出来る。 ・一人暮らし高齢者等の地域自立生活に向けて民生児童委員と介護支援専門員が手を携えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人向けオレンジサポーター養成講座を実施する。 ・民生児童委員と介護支援専門員との交流会を実施する。 	継続	<p>介護支援専門員と連携した経験がない民生児童委員がいるなどの現状を聞き取らせていただいた。 次年度は開催時期を早めに確定し、より良い連携の実現にむけて開催を目指します。</p>
南王子地区	プロジェクト 安心感育み	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし台帳及び、センターで対応する一人暮らしの方に関する相談から現状・問題を把握し健康課題の整理を行った。 ・あかし保健所の保健師が講師となり、老人性うつ等をテーマに介護予防教室を実施した。その中で、参加者同士での意見交換の機会を設けた。 	総合相談 一般介護 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課題として、整形外科疾患(骨折・狭窄症等25%)、認知症(18%)が生活の支障に関連しているという現状が確認できた。 ・生活課題としては、不眠、低栄養等が散見された。 ・まちなかゾーン会議主催の介護予防教室にて、うつ病とうつ病予防等に関する情報提供をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科疾患・認知症に関する情報提供を行っていない。 ・一人暮らしの方は、もし自宅で倒れたら誰に助けをもらうのだろうと不安の声があった。また、うつ予防をはじめ、一人暮らしの備えについて知りたいとの声があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者などが自分なりの予防や終活が行える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者等の備えとして以下の情報提供を行う。 ・もしもの備えシート ・救急れんらくばん ・整形外科疾患や認知症に関する予防等の基礎知識ほか 	継続	<p>一人暮らし高齢化率が市内でも上位に位置する衣川地区であるため、住民各々が備えられるよう情報提供し、またその情報を住民同士で共有したりする機会を設けるなど、支え合いのきっかけづくりにつなげられるよう令和6年度は取組みます。</p>

衣川中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
林地区	プロジェクト 気軽に相談	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会の広報紙にセンター紹介文を掲載することについてコミセン所長へ相談し了解を得た。 サテライト相談実施会場についてまちづくり協議会事務局に相談し、実施についての賛同を得た。 サテライト相談の実施について活用できる場所がないか、林校区まちづくり協議会と協議した。 	生活支援体制整備 総合相談	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会の広報紙への掲載について費用を要することが判明し、センター紹介記事の掲載は未実施である。 サテライト相談実施会場についてサロン代表者からサロンの場の活用について提案を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙の掲載を断念したことがセンターチラシの改訂版を作るきっかけとなった。 サロン参加者の多くがセンターについて知っていたが、その機能については知らない人が多かった。 子育てをされている方や将来介護をする可能性のある若い世代がサロン運営に携わられている。 	<ul style="list-style-type: none"> サロン参加者をはじめ、住民がセンターの役割を知り、健康などの問題を抱える地域住民にセンターを紹介できる。 	<ul style="list-style-type: none"> センターチラシの改訂版を活用する。 高齢者にこだわらず、幅広い世代向けセンターの役割機能を周知する。 サロンの場を活用し、実際に相談を受ける機会を設ける。 	継続	ほとんどの地域住民が、センターのことは何となくご存じであるが、その有する機能やどのような相談を受け付けているのかについてはよく知らない現状が確認できました。今後は、どのようなお困りごとの相談があるのかなど具体的に書かれたチラシ等を活用しセンターの周知を行います。
港町・岬町周辺	足腰きたえよう	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民代表者と解決策を検討する。 買い物に行ける足腰維持を目指した健康教室やインターネットショッピングができるようになるためのスマホ教室などを開催する。 	一般介護予防 生活支援体制整備	当該地区のサロンで、足腰を鍛える運動などの情報を提供した。その際に、スマートフォンの利用実態について参加者にアンケートをとった。	足腰を鍛える運動などの情報提供がきっかけで、サロンで運動のプログラムを継続して行うようになった。結果、多くの方がスマートフォンを利用しておらず、近くに住む家族等が買い物をしてくれていることが分かった。	サロン利用者が増え、足腰を鍛える住民も増える。サロンで足腰を鍛えるプログラムが継続される。	サロンで足腰を鍛えるプログラムの継続を確認する。加えて、飽きずに継続できるように足腰を鍛える新たなプログラム情報の提供などを行う。	終結	当該サロンに概ね毎月お邪魔し、実情等について確認する機会があるため、サロン実施者からの相談も受けやすく、適時対応できるので、本取り組みは終結します。

望海中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告）

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
望海	結んでつないで	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかゾーン会議（みんなの広場、地区座談会、健康教室）を課題解決に向けた場として活用する。 ・センターのカレンダーをツールとして商店等に配布し、センターの啓発と連絡しやすい関係性を作る。 	総合相談 一般介護予防 権利擁護 生活支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかゾーン会議主催の地域交流イベント「みんなの広場」を藤江小コミセンで11/18に開催した。準備のため座談会を14回開催した。30-40代の子育て世代の住民にも参加してもらいスクールガードの後継者不足等の地域課題について協議できた。 ・まちかど健康教室、サテライト相談を3小学校区で38回開催した。 ・カレンダーを472枚配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間でそれぞれ地域の課題は感じていたが、全体で共有する場が設定できていない。 ・カレンダー配布により、センターの周知を図り、地域の機関と対面での関係性づくりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の年代を超えた交流が継続して行われることにより、住民同士のつながりが強固となり、困りごとの相談、発見が早期に行われる。 ・商店、企業などからも困りごとの相談、発見が早期に行われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴崎校区でみんなのひろばを展開し、地域住民と地域課題について考える機会を作る。 ・カレンダーの配布を継続する。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの広場(まちなかゾーン会議主催で小学校区毎に行う,地域課題を劇として表現する取り組み)において、準備期間を通し、住民同士が世代間交流することができました。今後は実施後の地域の変化などをまちなかゾーン会議で確認し、地域課題を継続して考える仕組み作りができたと思います。 ・常に目につくものに着眼し、カレンダーでセンター啓発をしてくださいました。カレンダーを配布したあとは民間企業から相談が入るなど、幅広い啓発に繋がったと思います。

望海中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告）

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
望海	予望海護一ACPTツール補完計画一	<ul style="list-style-type: none"> 「にしあかし版人生会議」の配付後の取り扱い状況について分析する。 人生会議の効果や活用状況を確認するため居宅介護支援事業所への巡回を行う。 シルバーサポーター・キャラバンメイト交流会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療介護連携 総合相談 権利擁護 包括的継続的 一般介護予防 認知症 生活支援体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所への巡回を9事業所に対して実施した。事業所に対し、地域活動への協力や人生会議の取り組み状況などを聞き取った。 藤江校区で座談会を14回開催した。メンバーには30、40代の保護者も参加してもらい、地区課題について多世代で協議している。また人生会議に関する情報提供も行った。 キャラバンメイト交流会を12月に開催した。 オレンジサポーター養成講座を6月（中学生向け35人）、7月（個人向け 	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所への巡回より人生会議は知っているが、実際取り組んだことが無い、シートの利用法が浸透していないことが分かった。 世代間でそれぞれ地域課題を感じていたことが分かった。令和6年度は貴崎小学校区のみみんなの広場でも同様の取り組みを継続していく必要がある。 人生会議を知らない地域住民は多かったが、知る、興味を持ってもらえるきっかけづくりができた。 地区のキャラバンメイトと顔の見える関係性ができ協力依頼がしやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 人生会議の利用方法が浸透し、話し合った内容を形に残すことが出来るようになる。 多世代の地域住民に対し人生会議の理解が進む。 地域で認知症に対する理解が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人生会議の内容を形に残す取り組みについて、研修や交流会で啓発する。 キャラバンメイトと協力して、多世代に対しオレンジサポーター養成講座を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続 継続 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに周知啓発した人生会議の効果測定をするという難しい題材に取り組んでくれました。 明石市の取り組みも意識し地域への働きかけをしてください。
望海	二ナゾー	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に活動してもらうために健康測定会チラシで協力ボランティアを募る。 シルバーサポーター・キャラバンメイト交流会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備 総合相談 一般介護予防 認知症 	<ul style="list-style-type: none"> 9サテライト相談会に4名のボランティアの協力があつた。 藤江校区で座談会を開催し、担い手不足について若い世代も含めて協議ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力してもらったボランティアが居場所づくりの即戦力になる為の仕組みが必要。 若い世代でも担い手に関心がある事が分かり、SNSなど情報共有のツールを活用すれば、新たな担い手の発掘に繋がる可能性がある。 50代以下への認知症の啓発を行ったところ、担い手に関心がある参加者もいたため、活動に繋げる仕組みが必要だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動者が増え、居場所やつどいの場が増える。 広い世代に情報発信するツールができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康教室などにボランティアの参加を募る。 2次元コードをチラシや広報誌、カレンダーに用い、住民に対し明石市社会福祉協議会やセンターの周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続 	<ul style="list-style-type: none"> 健康教室など、地域との接点を活用し様々な事業の啓発をしてください。 引き続き担い手の発見や、地域活動に興味のある方を発掘するため、みんなの広場でつながった方々の後追いをまちなかゾーン会議等で行っていただく。

野々池中学校区 地域支援報告書 (令和5年度事業報告書)

プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
備えよう野々池	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職や介護経験者・キャラバンメイトが主体となり地域で高齢者や認知症の方の理解促進につながる場（講座）を提供する。 ・地域活動者やキーパーソンとなる住民へ高齢者や認知症の方の理解促進につながる情報を伝え、活動の必要性の共有、協議の場の立ち上げ、運営支援を行う。 ・参加者同士が自身の悩みを抱えることなく、相談しやすい関係を構築できる。 ・小・中学生やその保護者・介護支援専門員等の専門職が人生会議、認知症等を正しく理解することができるようにした。 ・キャラバンメイトを取得している専門職にオレンジサポーター養成講座の講師を依頼するなど、地域活動へ参加しやすくなるよう働きかけを行う。 	<p>総合相談</p> <p>権利擁護</p> <p>生活支援体制整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講座開催について、沢池校区のサロンの方針とセンターの考えた課題にずれがあった。 ・地域の健康測定会や講座にて子供から高齢者に向け認知症や人生会議の啓発を5回実施した。 ・キャラバンメイトを取得している専門職（後見支援センター、居宅介護支援事業所、福祉用具事業所の職員）と協働し3回の講座を支援した。協力事業所は7か所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンでの講座の開催は難しいが、住民主体で高齢者や認知症の方の理解促進につながる場があることが分かった。 ・人生会議のアンケートを取り高齢者には人生会議が浸透しつつあることが分かった。 ・アブローチが出来ていないため、アンケート、人生会議の資料の配布方法を調査していく。 ・専門職と協働することで関係性作りができ、多世代の地域住民へ認知症や人生会議の啓発が必要だという課題の共有ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体で高齢者や認知症の方の理解がさらに深まる。 ・若い世代が認知症や人生会議について知る機会が増える。（小学校、中学校、高校、大学） ・キャラバンメイト交流会等でキャラバンメイトとの関係を構築でき、キャラバンメイト自身が地域課題を見つけることができる。 ・専門職の地域活動への参加が継続できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沢池地区のサロンで虐待や詐欺防止、後見、終活、認知症についての講義を実施する。地域別で相談内容の分析を行う。 ・既存の健康測定会の支援をしながら、住民で実施していけるように検討する。 ・野々池中学校で人生会議や認知症の方への理解促進に向けた取り組み展開ができるよう働きかける。 ・笑くぼ（健康相談会）で県立看護大学と協働で健康講座を実施する。 ・民生児童委員と介護支援専門員の交流会を開催する。 ・相談件数の分析を各小学校区で実施する。 ・キャラバンメイトを取得している専門職にオレンジサポーター養成講座の講師を依頼したり、地域活動に参加してもらえるよう関係構築を図る。 	<p>継続</p> <p>継続</p> <p>継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教室、健康測定会の積極的な開催など地域での発信の場を設け、特に「正しい介護の理解」や「人生会議についての理解」を広めてくれました。 ・事例を通じ接点のできた専門職を介し、野々池中学校へのアプローチに成功。事例と地域づくりを巧みに融合し切り口を発見できていました。このような繋がりを長期的に絶やさず、少しずつ協力してもらえらる人材の発掘をつづけてもらいたいです。 ・キャラバンメイトと交流会を実施できており、目標達成はできていると思います。

野々池中学校区 地域支援報告書 (令和5年度事業報告書)

プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価(目標を達成できたか? 達成状況)	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい(展望、最終目標)③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
集まろう野々池	<ul style="list-style-type: none"> 松の内で既に行われている活動が無いか再調査する。 再調査の結果活動が無い場合は自主グループの立ち上げ支援を行う。 	一般介護予防生活支援体制整備 包括的継続的医療介護連携 地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> 松の内の民生児童委員に聞き取り調査を実施。 個人向けオレンジサポーター養成講座を実施し、中心となる地域活動者を発掘する場としたが、該当者がいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が会合等以外で活用されていない事が分かった。 理由として公民館使用料が高額なことや、集まりの立ち上げの中心人物がいないこと等が考えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 松の内での健康測定会やマルシェが開催できる。 松の内公民館を利用した活動の場ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 松の内公民館で健康測定会を立ち上げる。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 松の内限定での再調査ではなかったと思われるが、個人向け認知症オレンジサポーター養成講座など、地域での活動をきっかけにこれからも松の内での糸口をみつけてくれたらと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> 既存の健康測定会の継続支援を行う。 新たに1か所健康測定会の立ち上げを検討する。 	総合相談	<ul style="list-style-type: none"> 既存の健康測定会3回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 住民自ら企画運営できるようになりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民が負担感が強くないように、健康測定会を企画する。 西明石東町測定会が住民主体で開催できる。 測定会をきっかけに住民同士のつながりができ、サロンや健康体操(自主活)の定期開催に繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民主体での測定会が行えるよう支援していく。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 可能性のある場所で健康測定会を積極的に継続実施してくれました。 新規での展開は難しいと思われますが、個別事例などで糸口がみつければと思っています。
	<ul style="list-style-type: none"> 健康測定会に介護支援専門員や福祉用具事業所等の専門職が参加できるよう協力を依頼する。 		<ul style="list-style-type: none"> 健康測定会に圏域内居宅介護支援事業所2名参加した。 福祉用具展示会を実施し、圏域の居宅介護支援事業所、福祉用具事業所、デイサービス、後見支援センターの専門職と地域が協力し開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加した専門職は今後も地域活動に参加したいと協力的だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民と専門職が協力しながら催しを実施し、地域の活動が活発化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門職へ地域活動への参加要請を継続する。 このような活動が広がるように情報提供する。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な目標であった福祉展示会の開催を実現してくれました。 これまでと同様、専門職との接点(高齢者虐待防止研修など)を活用し、地域活動の情報提供と協力依頼を継続してもらえたらと思います。

大久保中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなしてほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
大久保中学校区全域	地域での相談を早期に受けようプロジェクト	<p>【1】 民生児童委員協議会や地域のサロン、地域活動の場においてセンターで相談を受けた事例紹介を行うことにより、センター機能や役割等について周知・啓発活動を行う。</p> <p>【2】 地区の民生児童委員や地域住民と情報共有を図る場を設定してニーズを聞き取る。</p>	<p>総合相談</p> <p>地域ケア会議</p> <p>権利擁護</p> <p>認知症</p> <p>包括的継続的</p>	<p>【1】 広報紙、センター啓発チラシ等を地区内サロン8か所、自主活6か所、民生委員、コミセン、みんなの給食、認知症カフェ、子ども食堂、見守り隊に配付。センター機能や役割について周知、啓発を行った。</p> <p>・7月29日大久保南小学校夏祭りにて、健康測定(握力測定)のブースを出展。握力結果記入用紙裏にセンターチラシを記載し、主に子育て世代へ向けたセンターの周知、啓発を行った。</p> <p>・9月19日、20日の2日間で大規模商業施設にて福祉相談ブースを出展しセンター周知を実施した。</p> <p>【2】 認知症事例について、当事者が居住しているマンションの自治会と話し合いを実施。マンション内のサロン活動が休止しており、自治会としても再開の必要性を感じているとの意見を聞き取り、再開に向けての話し合いを行った。</p> <p>・民生児童委員と協働し地域のサロンにて「今後の生活について」のテーマにて人生会議の初期段階の講話を実施した。</p>	<p>・センター機能や役割等についての周知・啓発活動を行う中で、センターに寄せられた事例についての地区別の分析を行った。センターで重点的に対応した事例は48件。</p> <p>1. 藤が丘地区9件 2. 大久保町地区8件 3. ゆりのき地区6件</p> <p>各地区の人口（藤が丘地区1948人、大久保町地区の人口6905人、ゆりのき地区6166人）から相談件数をみると、藤が丘地区の相談割合が多く、外部機関へご自身の相談がしづらかった事例が見られた。なお、藤が丘地区は高齢化率が1丁目46.3%(75歳以上27.1%)、2丁目40.1%(75歳以上25.5%)と明石市の中でも高い地域であり、今後も支援が必要な事例が見込まれる。センターに少しでも早く相談いただけるように周知を行っていく必要がある。</p>	<p>・高齢者が集う場に出向くことで、顔の見える関係ができると共に、地域活動の参加者にセンターの役割が広く周知され、相談するというハードルが下がり、早期に支援に繋がるようになる。</p>	<p>・現在関わっている地域活動や地域資源、フォーマルサービスとの連携を密に行い、地域の情報を収集する。</p> <p>・センター主催での行事を通して、広く地域住民にセンターが公的な相談窓口であるとの周知を行っていく。</p>	継続	民生児童委員からの相談件数が増えてきており、地域の支援者にセンターの周知が進んできていると思います。大久保校区の中でもそれぞれの地域の特性が異なるため、特性に応じて啓発方法等変えていくとよいと感じます。

大久保中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
大久保中学校区全域	各々にとつて心地よいつながりプロジェクト	<p>・それぞれの立場で考える地区の課題を共有して、地区を再確認する。</p> <p>・各々に合った有益な情報について検討する。</p>	<p>地域ケア会議</p> <p>生活支援体制整備</p>	<p>・6月20日、第1回まちなかゾーン会議にて、保健行政部門や保健医療関係者から地区の特徴や課題を提示し、3小学校区に分かれて地区の問題点について意見交換を行った。</p> <p>・2回目まちなかゾーン会議から、3小学校区に分かれて課題と課題に向けた取り組みの意見交換を行い、第4回目には地域で取り組む方向性や目標、具体策が決まった。大久保地区では、歯の健康づくり、大久保南地区では、防災、谷八木地区ではフレイル予防の取り組みを通して、世代を問わず、つながりを作る事の必要性を住民と共に考えていく機会を作る。</p>	<p>認知症に関わる警察からの相談について今年度大久保地区は28件あり。</p> <p>1.ゆりのき地区8件 2.大久保町5件 3.谷八木地区・八木地区各4件。</p> <p>また、ゆりのき地区で重点的に対応した事例6件のうち4件が認知症による相談であった。また、明石市の人口増加のうち75%はこの地区に集中しており、20年間で人口が倍増した転入者の多い地区である。20代や40代50代の増加により高齢化率は15.99%と低率だが、高齢化率は年々上昇している。若い世代も含めた地域住民全体に認知症の正しい理解を広めていく必要がある。</p>	<p>若い世代も含めた地域住民全体に認知症の理解を広げ、認知症になっても住み続けることができる町を目指す。</p> <p>転入者が多く、顔の見える関係が築きにくいと、地域とのつながりや多世代交流の機会を持ち、防災に強い町、次世代がいきいき暮らせる町を目指す。</p>	<p>【1】自治会、まちづくり協議会などに認知症の正しい理解を広める活動をする。</p> <p>商業施設や金融機関、医院などが多い地域のため、それぞれの機関と連携が取れるような関係づくりを継続的に進める。</p> <p>※令和5年の事業計画書の課題について、まちなかゾーン会議を主軸としたつながりづくりへ令和6年度計画を見直している。</p> <p>【2】まちなかゾーン会議にて、地域の団体等と防災について一緒に検討できる関係づくり、及び小地域で多世代交流やつながりづくりを目的とした取り組みを行う。</p>	継続	それぞれの意見を集約し、具体的な取組までつなげることは大変であったと思います。意見がまとまったポイントを振り返り、今後の具体的な活動に生かして行ってください。

大久保北中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
緑が丘	緑が丘いいとこ探しプロジェクト	・サロン参加者の参加ニーズを把握するためヒアリングを実施 ・地域のキーパーソンに対するヒアリングを実施し、実際の地域課題の確認と今後のアプローチ方法の見極めをする。	総合相談 認知症 権利擁護 地域ケア会議 生活支援体制整備	・今後、他地区と合同で地域課題の解決に向けた地域ネットワーク会議を実施予定のため、その流れをくみながら必要があればアンケートを検討する。 ・自治会長に依頼しセンターのチラシ回覧を実施。安否確認事業の登録者3名を訪問し、生活状況聞き取り。地域ネットワーク会議を開催。地域の課題を参加者と共有できた。	・地域ネットワーク会議で、花壇の整備やボランティア活動の効果を共有。多世代との交流や後継者問題についての課題が挙げられた。	・個々に合った情報収集の方法で、必要な情報を入手できる。 ・地域の実情に即したボランティア活動ができる。	・第2回地域ネットワーク会議を開催。参加者から、多世代交流についての課題や後継者がいないという地域課題の問題点についてヒアリングを実施し、今後のアプローチの方向性を検討する。	継続	地域の課題ばかりに目を向けるのではなく、良い点を確認出来たことが良かったと思います。
西脇	西脇地域活動継続プロジェクト	①高年クラブと自主活の協働体制のきっかけづくりを行いつつ、地域の集いの場の継続を支援し、活動が途絶えないようにする。 ②現在、サロンに来ている人が継続して来られるように後方支援を行う。	総合相談 一般介護予防	①高年クラブ会長から自主活が無事に立ち上がっている事を確認した。また、世代間交流についての希望も聞き取った。 ②高年クラブ新規加入者を増やしたいという希望を聞いた。	①自治会や地域行事は、昔から住んでいる住民の方達で行っており新しく転居してきた住民の方が入りにくい状況。子どもが多く、世代間交流の希望も聞かれた。地域行事には子どもが多く参加するなどの強みもある。 ②令和7年西脇会館の建て替えが決まり、建て替え中は近くの建物で活動を継続される見通し。高年クラブの活動を住民が知る機会が少ない。	①既存の行事を活かして、子ども会、自治会、高年クラブで話し合いができる。世代間交流の活動が活発になる。 地域行事や活動を周知し、新住民の参加や高年クラブ会員数が促進される。 ②西脇会館建て替え中も、地域の活動が継続できる。	高年クラブと自主活については、継続して活動が行われており、問題なく継続出来ているため、課題解決した。活動拠点である西脇会館が、今年度建て替えの予定であるため、活動規模が縮小されている。再建後、新たに活動が再開された時に、新たな課題について検討を行う。	中止	地域の拠点である会館の改修工事による今後の地域活動への影響が少なくなるよう、特に高齢化が進んでいる地域なので、再開後状況確認、サポートをお願いします。

大久保北中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうしてほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
大窪南北市住	市住みまもり隊	・民生児童委員、協力委員の見守りネットワーク機能を強化するために、担当地区の民生児童委員と情報共有、連携をさらに充実させる。	総合相談	・今年度の地区担当職員と担当民生児童委員とで顔合わせを行い、市住の居住者に関する課題について確認できた。 ・民生児童委員と住宅課から3件（認知症や障害者の居る世帯）転居の相談を受けている。 ・住宅課と連携をとりながら、介護保険申請代行などの支援を行っている。	・取り壊しの方向性が決まっている。時期は未定だが、転居のための支援が必要となる可能性がある。 ・複合多問題のある世帯が多く、転居のための手続や支援が必要な状態である。	・民生児童委員と連携を取りながら転居への支援ができる。 ・高齢者世帯、複合多問題のある世帯が必要な時にすぐに支援につながる。民生児童委員と見守りが必要な世帯の共有ができている。	・転居後も必要な支援を継続して行う。 ・転居地の民生児童委員との連携を行う。 ・転居地の地域資源へつなぐ。 ⇒R6年度は、生活見守りプロジェクトに改名	拡充	民生児童委員や住宅課との連携を図り、支援が必要な人の把握に努めてください。
ゾーン	大久保北地区まちなかゾーン会議	・他団体と話し合うことで、大久保北地区内の支援活動の相互理解をすすめ、「顔が見える関係」づくりが出来るように支援する。	地域ケア会議生活支援体制整備	・参加団体同士の横のつながりを強みとして、防災をテーマに取り組む事となった。 3年計画として、今年度は防災の知識を深めるために講話を聞く事となった。	・センター主導となりがちである。発言が控えめな団体もあり、意見が偏りがちとなっている。 それぞれの思いはあるが、意見がまとまりにくく、まちなかゾーン会議の意義が不明確となっている。	・参加団体がまちなかゾーン会議の役割を理解し、主体的に取り組む事ができる。北地区の要援護者が住み慣れた地域で、災害があっても安全安心に暮らしていくことができる。	・まちなかゾーン会議の役割を考え直し、防災イベントの内容を決定する。	その他	地域では各支援団体がそれぞれの思いを持ち活発に活動をされています。まちなかゾーンの中の取組をきっかけとして繋がることで、よりより支援が出来ることになればと感じます。

高丘中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなっほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
高丘西小学校区	やさしくまいにちてとてをだいにいきと	・既存のネットワークの実態把握。サロン代表者や自治会長へ、センターや民生児童委員の役割周知を行い、気軽に相談し合える関係づくりを行い、即時相談の啓発を行う。既存の資源のバックアップを行いつつ、まちなかゾーン会議を通して住民へ早期相談の啓発を行う。	総合相談 生活支援 体制整備 一般介護 予防	・山手台会館でのふれあい会食にて講話を計3回実施。同会館のサロン訪問による活動把握およびまちなかゾーンの健康教室への参加を呼び掛ける。 ・高丘西校区まちづくり協議会に毎月出席し運営協力を行った。幹事会で地域のキーパーソンとコミュニケーションを取り続けたことで、即時相談や実態把握につながった。 ・まちなかゾーン会議では毎年高丘中央コミセンで健康教室を開催している。山手台の方は遠くて行きづらいという声があり、今年度からはより住民が身近な場所・自治会館で健康教室を開催することで、住民のニーズがより細やかに理解できることにつながった。 ・山手台・緑が丘地域ネットワーク会議を開催。会議を通してお互いの活動を知り、認識し合うことができた。	・小地域で個々のつながりはあるものの、校区全体のつながりには至っていない。 ・隣接する地域でもお互いの状況は知らないことが多い。 ・既存の地縁組織等でも「後継者」と「多世代交流」は共通の課題。	校区全体で助け合いネットワークが構築されている。	①第2回山手台・緑が丘地域ネットワーク会議を開催する。 ②地域のキーパーソンと協働しゾーンの小地域活動を継続する。 ③高丘西校区まちづくり協議会と協働した地域づくりを行う。	継続	地区のキーパーソンを通じて地区の把握が進んできています。このまま継続してください。
高丘中学校区	自分での選ぶA C P	・より身近に感じてもらえる講話内容とするため、堅苦しい内容ではなく気軽に聞ける講話内容を考える。 ・講話に参加していただいた住民に明石市の人生会議ツールを配布し、意思表示することの大切さや、その場で記入していただくことで、人生会議について考えてもらう。	医療介護 連携 地域ケア 会議	・人生会議の啓発として、少人数の身近なサロン2か所での講話と、まちなかゾーン会議主催でのまとまった規模での健康教室との両方からアプローチでき、多くの住民を対象に自分事として考えてもらうきっかけづくりができた。	・自分が望む医療や介護について、自分自身で考えたり、家族と一緒に話し合うことができていない。	・住民だれもが人生会議を自分事として考えることができています。	・全職種が「もしものときの備えシート」を普及させる。 ・サロンでの講話や民生児童委員・協力員の研修会等で、人生会議の啓発を行う。	継続	人生会議への取り組みは消極的になりやすいので、はじめのきっかけとして、気軽な講話から開始出来てよかったですと思います。

高丘中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、 課題No.	やったこと、実績 、計画した課題①	当てはま る事業	評価（目標を達成できたか？達成 状況）	やってみてわかったこと、残っ た問題②	更にその先に最終的にこうなっ てほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
高丘中 学校区	ふ ら っ と ♡ ち よ っ と ☺ あ っ ま ろ う 会 ☺	<p>・介護者や過去に介護経験のある人達が集まり、自由に話をして帰れる場所をつくる。</p> <p>シルバーサポーターに認知症カフェ等のスタッフとして協力を依頼する。</p> <p>・施設職員や医療従事者にも認知症カフェへの出務を依頼する。</p>	<p>認知症</p> <p>生活支援</p> <p>体制整備</p>	<p>・7月～シルバーサポーターを中心とした認知症カフェの「呆が楽会」が発足した。2か月に1回定期開催されている。誰もが気軽に朗らかに過ごせるカフェをコンセプトとしておられ、認知症の方だけでなく、一人暮らし高齢者も多く参加している。カラオケが出来るため、男性高齢者も活躍される場となっている。</p> <p>・9月～コープ大久保にて「脳力アップ教室」が開催され、運営支援実施。シルバーサポーターの教室サポーターも、教室受講生もメンバーが欠けることなく、意欲的で順調に経過している。</p>	<p>・「呆が楽会」が認知症カフェとして立ち上がり、今後は買い物支援や集いの場など、様々な活動への展開が検討されている。</p> <p>・「脳力アップ教室」が開催され、教室終了後は、自主グループ活動への移行が検討されている。</p>	<p>・「呆が楽会」が多世代のつながりと支え合いのプラットフォームになる。</p> <p>・自主グループとして、メンバーが主体的に取り組み、活動が定着する。</p>	<p>・「呆が楽会」の運営支援を継続する。</p> <p>・自主グループ活動の立ち上げ支援と運営支援を実施する。</p>	継続	<p>自分事として積極的に活動が出来る地域なので、その思いに寄り添いバックアップを行うことが大切だと感じます。</p>

江井島中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った課題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
江井島全域	江井島再生計画	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に続き、江井ヶ島総合市場を拠点としたサテライト相談を継続する。 センターを身近な相談窓口だと認識してもらえよう、出前講座などを通じて周知を行う。 	総合相談 生活支援体制整備 包括的継続的 認知症 権利擁護 医療介護連携	<ul style="list-style-type: none"> 5月23日サテライト相談と健康測定会を同時開催した。訪問看護ステーションの協力を得て地域住民が21名参加した。 10月11日個人向けオレンジサポーター養成講座を開催した。参加者へアンケートを実施。「センターを知っていますか」という設問に対し76%の住民が知っていると回答した。令和3年3月に実施した第1回サテライト相談会の際には、同設問に対して知っている割合が59%であったことから、継続したサテライト相談、出前講座の取組がセンター周知につながっていることがわかった。また、講座受講者が下記のSOS声かけ訓練に参加するなど、活動者の発掘につながった。 サロン、自治会、高年クラブ等へセンター職員による出前講座を計23回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動者への聞き取りの結果出前講座等の開催場所の再検討が必要となった。新たな活動場所の選定が必要になる。 金融機関等の民間企業や圏域内のサービス事業所との連携が図れていないことから、早期の相談につながっておらず、地域資源が有効に機能していない。 	<ul style="list-style-type: none"> フレイル予防研修会や出前講座に参加した地域住民が、気になる方の情報をセンターに相談しやすい体制が構築される。 民間企業等から福祉に関する相談がセンターに入るようになり、早期発見・早期対応ができるようになる。また、地域資源が地域住民の希望に沿った形で活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度、江井ヶ島総合市場で実施していた出前講座を、地区社会福祉協議会等が、実施するフレイル予防研修会時やサロン、高年クラブ、自治会等の団体へ向けて行っていく。 民間企業とは対応の困難な事例、圏域内のサービス事業所とは地域課題の共有を図り、必要な連携の在り方を検討する。 次年度はプロジェクトを発展させ「みんなでつくろう支援のわ」へプロジェクト名を変更する。 	継続	センター周知については一定の結果が得られたと思います。地域での活動が活性化、継続したものにするために、今後は、地域と共同した取り組みが進んでいくことを期待します。
大歳	大歳再生計画	<ul style="list-style-type: none"> 大歳自治会館を活用し、センターの出張相談・出前講座を開催。大歳地区の住民が集まる機会を作り、地域住民のニーズについて調査を行う。 	総合相談 生活支援体制整備 一般介護予防 包括的継続的 医療介護連携 権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 6月19日に健康相談会を開催し、9名の地域住民が参加した。血管年齢測定と【数年後、大歳地区がどうなっているか】をテーマに座談会を行った。また、座談会後にアンケート調査を行い、居場所活動のニーズ把握を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 座談会後のアンケートでは「活動があれば参加したい」と回答した方が多かった。 日頃のご近所付き合いで、見守りを行えていることが明らかになった。 自主運営の場合、自治会館の鍵の管理、自治会役員の負担増の問題があることが明らかになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民同士による日頃の見守りが継続され、支援が必要なタイミングでセンターに地域住民から相談が入る体制ができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度はプロジェクトを発展させ「みんなでつくろう支援のわ」へプロジェクト名を変更する。 	継続	出張相談を開催することで、地区課題の特性の把握が出来、今後の取り組みの方向性が確認出来たと思います。

江井島中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った課題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
江井島全域	認知症意識醸成計画	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかゾーン会議主催で、SOS声かけ訓練を実施する。地域住民や民生児童委員、事業所等と協力し計画を進める。 ・オレンジサポーター養成講座の啓発チラシを活用し、地域内のサロン等に啓発を行う。 ・令和5年度に引き続き、大久保圏域を活動地域として登録されているキャラバンメイトの交流会を実施しキャラバンメイト同士の交流や情報交換を図る。 	認知症総合相談生活支援体制整備 地域ケア会議 権利擁護 包括的継続的	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、認知症高齢者が空き家で亡くなって発見された自治会で、10月26日に認知症の対応の仕方を学ぶ学習会を開催した。11月16日にSOS声かけ訓練を実施した。SOS声かけ訓練には、学習会の参加者や地域住民、専門職など44名が参加した。訓練後のアンケートでは約9割の方が、継続した訓練の必要性を感じており、継続して実施していく必要性を再確認した。 ・オレンジサポーター養成講座の開催に向け、地域活動者から、人権教育推進員との連携について助言を得ることができ、地域支援者と協働する体制を構築できた。 ・江井島地区のキャラバンメイトは一つの病院に7名しかいないことがわかった。大久保圏域を活動地域として登録されているキャラバンメイト約60名のうち交流会に40名が参加したが、江井島地区からは1名のみ参加であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解や正しい対応の仕方が周知され、必要な方への見守りが行えることにより、認知症になっても住みなれた地域で生活できる。 ・オレンジサポーターやシルバーサポーターなど、理解者や活動者を増やす必要性が高いことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解や正しい対応の仕方が周知され、必要な方への見守りが行えることにより、認知症になっても住みなれた地域で生活できる。 ・オレンジサポーターやシルバーサポーター等の養成講座の受講者が増加し、キャラバンメイトの活動をはじめ、地域の様々な活動の担い手として参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、自治会等に働きかけ、認知症勉強会、SOS声掛け訓練を実施する。 ・人権教育推進員と連携し、自治会等に向けてオレンジサポーター養成講座の開催を促す。 ・次年度はプロジェクトを発展させ「住み慣れた地域で暮らし続けよう」へプロジェクト名を変更する。 	継続	まちなかゾーン会議主催で地域団体の協力のもと、SOS声かけ訓練が開催されたことが良かったと思います。

魚住中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
魚住中学校区（中尾）	遠い地域までセンターのことを知ってもらおうぞ！プロジェクト	健康チェック及び防災について自治会長と話し合いの場を設けた。 7月にまちの保健室に依頼し、中尾会館で健康相談会のイベントを行った。 自治会長と健康相談会の振り返りを行った。	一般介護予防	7月のイベントの際にセンターのブースを設けていたが、相談はなかった。 自治会役員の方との関係性を築くことができた。	従来より明石高専と自治会とのつながりがあり、12月の防災訓練の実施計画が既に進んでいたことが確認できた。 自治会長と信頼関係が築けたため、令和6年も健康イベントの実施希望があった。	令和6年度の健康相談会についても、実施希望があるため、令和6年7月に実施予定。 自治会から要望があれば、協力	年1回の健康イベントにセンターの周知活動を含め、参加する。	その他	自治会との連携を図り、共同でイベントを企画運営した事で、地域把握のきっかけとなりました。但し単発的なサテライト相談の実施では相談者がなかった事など成果を得ることが出来なかったことから、結果の分析を行ない、センター周知の在り方を再構築していく必要があります。
（新小谷）	遠い地域までセンターのことを知ってもらおうぞ！プロジェクト	新小谷会館で行われているサロンに毎月1回訪問した。 1人暮らしの方に安否確認事業として、飲料配付を行った。 飲料配付時に生活状況の聞き取り確認をした。	総合相談	実態把握のためのインタビューは、実施できていないが、調査・分析のための情報収集につながる関係性が築けた。	飲料配付やサロンに訪問した結果、相談できず困っているというより、別居家族の支援が得られている世帯が多いことが分かった。自治会活動が安定しているため困りごとがあれば、自治会へ相談に行くということで、相談先は、自治会か自分の子供に相談すると話されていた。	②の結果。必要時に自治会、家族を通じて相談が入ってくるようになったため、新小谷地区での計画は終了する。サロンに来ていない人や飲料配付対象になっていない人についての支援は民生委員や民生協力員と連携を継続し適宜対応することとする。		継続	センターから立地条件が遠方であること来所相談がし辛い状況が見込まれ、安否確認事業としての飲料配付やサロンの参加から地区把握を試み、単身高齢者世帯であっても家族との関係性が保たれていることで生活に大きな支障が出ていない事が確認できたこと成果になりました。地区把握については機会をとらえて継続実施が望ましいです。
錦浦小学校区	認知症をつつむまちづくり	9月にオレンジカフェの主催者とセンター職員で話し合いの場を設けた。 2月にオレンジカフェの役割を運営スタッフと再度確認。 オレンジカフェの周知を地域で行う。周知を行う方法として、オレンジサポーター養成講座、認知症の研修会を開催し認知症について	認知症	オレンジカフェの運営について、運営者が主体的に運営できるようにになった。 SOS声掛け訓練は必要性等実施の動機付けになる働きかけができなかったため、引き続きオレンジカフェを通じた訓練の意義等の啓発が必要。	錦浦小学校区の認知症に関する相談件数は、年々増加している。 オレンジカフェがある中尾に限らず、錦浦小学校区全体に認知症の理解を広げるの必要性があると感じた。	錦浦小学校区の集いの場を切り口にオレンジサポーター養成講座を開催する。その際にオレンジカフェのスタッフに協力を要請するなどして支援者同士の連携を図る。	錦浦小学校区でオレンジサポーター養成講座の実施。 オレンジカフェのスタッフの方との関係性の構築を継続する。	継続	オレンジカフェと連携して、地区の認知症ケアを推進していきます。については、地域の実情を踏まえて効果的な実施を目指します。

魚住中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなしてほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
錦浦小学校区	いきいきわくわくプロジェクト	西岡高年クラブの会長と信頼関係を築き、西岡高年クラブのメンバーと話し合いの場を設けた。 高年クラブメンバーに現居での活動の満足度を中心に聞き取りを行った。	生活支援体制整備	高年クラブとして、何ができるか模索されていることが分かった。 他の高年クラブの活動について情報提供を行った。 12月に開催されたお誕生日会に参加し、活動把握と参加者と信頼関係を構築した。	他の高年クラブとの関係性が希薄であり、活動活性のための情報が少ないことが分かった。 体操等、週単位の活動は、検討されていない様子であった。	西岡高年クラブの活動が継続されるよう支援する。	高年クラブの状況を把握した結果、3か月に1回の活動が続けられていたため、終結とする。	終結	高齢化が進む地区の状況を高年クラブの運営状況から実情が把握のきっかけになった。ただし地区が抱える生活課題がつかめていないため引き続き機会をとらえてニーズ調査等の把握手法の検討を含めて把握に努める。また、毎月開催されている地区内の高年クラブ会長会の出席により、西岡高年クラブ以外の状況等を把握しクラブ間の交流や運営の課題検討ができるよう働きかける。

魚住東中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
金ヶ崎県住	金ヶ崎県住プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・担当民生児童委員より、取り壊しを控える金ヶ崎県住の現状を聴き取りする場を設ける。 ・自治会役員とつながりをもつ。 ・個別訪問が必要な世帯の訪問者リストを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談 生活支援体制整備 地域ケア会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし台帳登録者について民生児童委員から聴き取りを実施。訪問で県住の居住状況を調査し、自治会長から気になる世帯の情報等を収集し、住民のリストを作成した。 ・困り事の相談先としてセンターの周知を行っているが、当初の目標である見守り体制の構築には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問した方の多くは、自転車等で外出ができる身体状況、家族の訪問や支援を受けられる環境にあり、支援が必要な困り事は確認できなかった。 ・訪問時、救急いんらくばんを配付したが記入のフォロー等が必要なケースがあったことから、配付後の運用状況の確認が必要。 ・年次に自治会存続の危機があり、今後自治会が解散する懸念がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの機能や役割が地域に周知されることで、自治会役員や民生児童委員、協力員との連携が進み、住民の困りごと等が相談しやすい体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後必要に応じて連携できるように、自治会長や民生児童委員と関係を維持する。 ・住宅管理担当者に、住民から介護等の相談があればセンターにつないでいただくよう紹介する。 	その他	<p>取り壊しによる転居を控える住民の生活課題を抽出し、支援体制構築を目指した取り組みを試みた。そのベースとなる高齢者世帯の戸別訪問による実態把握を丁寧に行なった結果、概ね親族らの支援等によりトラブルなく生活の継続が見込まれている世帯が多いことが確認できた。一方高齢者の単身世帯で認知症や親族支援が望めない等の要因で転居が難航する世帯について、どのように支援するか検討する。</p>
長坂寺県住	長坂寺県住プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員、自治会役員と住民の生活状況や自治会運営状況等を共有する。 ・新旧入居者の世帯状況（要配慮世帯の有無など）実態把握をする。 ・約2年後の集会所が建て替わるタイミングで、住民同士が交流を図れる機会をつくれるように、キーとなる住民を発掘する。 ・県住の実態把握、つながりを保つために、年数回の出前講座を自治会に提案する。 ・自治会役員、住民とつながりを保つため、住民が集まる場に参加する。 ・住宅管理担当者に住民の入れ替わり状況を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備 地域ケア会議 包括的継続的 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の運営の進捗により住民との意見交換の場を設けることを提案できていない ・定期的に県住を訪問することで、一部の自治会役員や住民との関係を築いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長、副自治会長を通じて、健康講座開催を役員会に働きかけたが、賛同を得られず開催に至らなかった。自治会への依頼を負担と感じられているため、働きかけ方の工夫が必要。 ・住民の入れ替りについて、住宅管理担当者によると外部からの転入は全体の1割程度と情報を得たが、住民の実態把握をするには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約2年後の集会所が建て替わるタイミングで、住民同士が交流を図れる機会をつくれるように、キーとなる住民を発掘する。 ・県住の実態把握、つながりを保つために、年数回の出前講座を自治会で開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の機会を得られるように、引き続き自治会役員に働きかけていく。 ・集会所活用に関する住民ニーズを把握するため、座談会の開催を自治会や青年クラブ、その他住民に働きかけていく。 	その他	<p>建て替えが進むなかで新たな住民自治が構築されているが、住民の体制づくりも途中であるため住民への積極的なアプローチに至っていない。引き続き自治会とのコンタクトを取りながら情報収集に努め、2年後に立て替えられる集会所の活用を起点に、住民同士のつながりを強化できるような取り組みを検討していくことになる。</p>

魚住東中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
魚住東地区	認知症プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ コープ意見交換会に参加し、地域課題を共有する。（認知症の方の集いの場の現状について） ・ 認知症理解を深める場所（サロン等）の選定。 ・ 担い手の発掘（シルバーサポーター交流会を開催） 	認知症 生活支援体制整備 一般介護予防 権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2か所（守池・長池自治会）の集い場でオレンジサポーター養成講座を開催した。認知症を正しく理解するとともに、社会参加のメリットを伝え誰もが参加できる場になるよう働きかけた。 ・ シルバーサポーター交流会で意見交換をすることによって、新たな発見やお互いの活動を発展させることにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オレンジサポーター養成講座を通じて、地域での支え合いを参加者同士で再確認することができた。 ・ 開催が一部の地域に限られるため、総合相談の傾向から他地域でも取り組みを考える必要がある。 ・ シルバーサポーター交流会が活動の情報交換に留まり、新たな担い手発掘に繋がっていない、活動につながる働きかけが必要。 ・ スーパーの従業員が認知症の人の対応に困っていることを把握した。対応方法の啓発の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オレンジサポーター養成講座開催後に、認知症当事者や家族の居場所への参加が増える。 ・ サロン等の既存参加者に認知症状況が出た際に、お互いに見守りが行える環境となる。 ・ 認知症の人が買い物等の日常生活を送ることができ、店舗で困っている人がいる場合に適切な相談先につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで取り組めていない地域や企業などでオレンジサポーター養成講座を開催する。 ・ シルバーサポーター交流会をキャラバンメイト等も含めた交流会にし、活動の幅が広がるようにしていく。 	継続	認知症の相談が多かった地域を選定しセンターからの働きかけでオレンジサポーター養成講座を開催したプロセスは、講座開催の意義を再認識できる機会になったと感じる。認知症にやさしいまちづくりの取り組みは一朝一夕には進まないが、センターは根気よくかつ効果的に展開したいと考える。

二見中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなりたい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
東二見漁協付近	つながりプロジェクト	【1】 サテライト相談を拡充した ① 1か所から3か所に増やした ・上西厚生館（毎月第2金午前） ・二見はまなすの会（第4水13:30-） ・阪神調剤薬局（半年に1回） ② サテライト相談会の周知 ・サテライトのチラシを作成し上西厚生館で配布	総合相談 生活支援体制整備	① について、上西厚生館（毎月実施）、二見はまなす会（1回/年）、阪神調剤薬局（2回/年）実施した。 ② について、チラシを作成し、上西厚生館へ設置するとともに、サロンで配布した。	はまなす会に関しては参加者が固定されており必要時にはサロン代表者を通じてセンターへ相談が入る体制ができ、相談・解決できる力がある参加者が多い事が把握できた。 上西厚生館に関しては、毎月参加する事で気軽に相談できる体制が整えられた。	困った時に早期に専門職へ相談することができる地域づくり。	サロン代表者など、地域のキーパーソンから生活上に困難を抱えている人へセンター周知ができるようにサテライト相談のチラシを二見全域の公的機関や自治会館を中心に配布し、特にセンターから遠く離れている二見北地区のサロンなどへも配布する。	その他	令和6年度も、阪神調剤薬局でのサテライト相談会（2回/年）を継続し、薬剤師と協働できることも模索していきましょう。 サテライト相談の実施、チラシ等での啓発は次年度も継続していきましょう。
		【2】 四職種が多様な障害の特性について学んだ ・あかし保健所との情報交換会を実施 ・センター職員の内研修（権利擁護について）	権利擁護 地域ケア会議	あかし保健所と情報交換会を実施した。明石市基幹相談支援センターとの連携については日々の連携を大切に丁寧に実施した。 センターの内部研修については高齢者虐待対応の基礎知識について学んだ。 各機関の役割や対象者の特徴が理解できることで多機関協働がスムーズにできるようになった。またセンターのみならず「二見まもろう会」を通じて二見圏域の介護サービス事業所へと広域での学びの場を作ることができた。	あかし保健所との情報交換会では、それぞれの機関の考え方を知ることができ、また日々の事例対応において連携を密に行い協働することで学びが深まり顔の見える関係性へつながった。	お互いの立場や役割を理解し密に連携を図ることができる。	現在の連携が維持できるように、日頃から密に連携を図る。 保健所との情報交換や、内部研修での学びから、つながりプロジェクトを地域を限定せず範囲を広げて行えるよう発展させることを目指す。	その他	事例対応時、あかし保健所や明石市基幹相談支援センターとは円滑な連携が図れており、連携する中で、学びを得られています。令和6年度も、日常の支援から、連携の中で学びの意識を高く持ち、より円滑な連携が図れるように努めましょう。
		【3】 どのような活動の担い手が必要なのか調査を行った ・二見はまなす会やその他のサロンに参加し、スタッフのニーズ調査を実施 ・まちなかゾーン会議の運営	生活支援体制整備 地域ケア会議 一般介護予防	・サロンへ参加し、サロンの運営状況とスタッフの思いを傾聴し後方支援を行った。 ・コロナ禍で休止していたまちなかゾーン会議をR4年から再開し継続して実施した。	まちなかゾーン会議については休止期間が長かったため、再度、会員に向けて会議の意義や目的、方向性について周知を行う必要性があった。	まちなかゾーン会議については、地域住民と専門職が地域課題に対して共通認識を持ち、協議を進めることができる。	まちなかゾーン会議については、会員の皆様が有意義に協議できるようにグループワークの内容や方法について工夫する。	その他	まちなかゾーン会議の構成員とまちなかゾーン会議の趣旨を共有でき、地域住民と専門職が地域課題に対して共通認識を持ち、協議を進めることができるよう、時間がかかる事ですが、頑張っ取り組んでいきましょう。

二見中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなしてほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	センター長の講評
あ わ の 自 治 会	つ な が り プ ロ ジ エ ク ト	【1】健康測定会、介護予防教室を実施した ・淡野県住、市住東二見 ・各サロン、老年クラブ、自治会等各地域に応じて実施（9か所） ・二見まろう会と協働して実施した	一般介護予防 生活支援体制整備 包括的継続的	サテライト相談を兼ねた健康測定会を淡野県住で年に2回実施予定であったが、第1回開催時に自治会長の協力の元、全戸へ案内のチラシを手渡しにて配布したところ、「今のところ困り事はない」との回答が多く、男性介護者に対してはすでに支援が届いていると判断し、2回目の相談会は別会場で実施することとなった。	高齢化率は高いが互助、自助の力があり、自治会長が気になる方へは見守りを行っていることが分かった。	二見全域において男性介護者が孤立することなく、困った時にSOSを出すことができる。	地域の傾向を分析し、他の場所で男性介護者の状況について実態把握を行う。	継続 拡充	男性介護者が抱える課題に寄り添うことができるように、今後も、取り組みを拡充してください。
		【2】認知症の理解促進を行った ・オレンジサポーター養成講座を継続して実施 ・キャラバンメイト交流会 ・消費者被害予防周知活動 ・人生会議の普及活動	認知症 生活支援体制整備 権利擁護 医療介護連携	オレンジサポーター養成講座の依頼が多く、認知症の正しい理解の普及につながった。また警察からの消費者被害の講話を地域のサロン2か所で開催することで警戒心を持っていただけるように働きかけることができた。消費者被害については警察に問い合わせた所、中学校区毎人生会議の普及に関しては、『もの時の備えシート』をオレンジサポーター養成講座実施時に配布することで興味関心を持ってもらえるきっかけづくりにつながった。	今年度初めてキャラバンメイト交流会を実施したことで、キャラバンメイトに地域貢献活動のニーズがあることが分かった。消費者被害については警察に問い合わせた所、中学校区毎のデータや傾向は分からないとの返答であったため、二見地区における消費者被害についての現状は把握できない状況である。	地域住民に認知症の正しい理解の普及が促進できる。	・高齢者世代だけではなく、若者世代へも認知症の正しい理解の普及を行うため、学校へオレンジサポーター養成講座の受講について働きかけていく。 ・キャラバンメイト交流会はミックスカフェ立ち上げ準備と認知症の方への対応についての課題共有のため、継続する。 ・認知症の方を介護する家族が語れる場づくりについて、協力者の担い手と会場選定のために情報収集を行う。 ・消費者被害についてはチラシの啓発と情報収集を継続する。 ・人生会議については『もの時の備えシート』をオレンジサポーター養成講座で引き続き配布する。	継続	認知症の理解を広げ、住民が我がこととして捉え、自身での早期発見ができたり、自分で意思が伝えられなくなった時に備えができるよう、継続して取り組んでいきましょう。
		【3】複合多問題を抱える世帯を支援する支援者支援ができる ・居宅介護支援事業所巡回 ・ふたみまろう会の運営 ・特定事業所事例検討会 ・介護支援専門員交流会の開催 ・医療機関巡回	包括的継続的 生活支援体制整備 医療介護連携	包括的継続的事業の一環として実施した。今年度、新たに介護支援専門員中心の会議体（teku teku）を立ち上げ、課題の共有や検討、民生児童委員と介護支援専門員の交流会を実施した。	複合多問題を抱える世帯への支援については支援者の力量により差が出ることが分かった。	支援者が利用者主体の支援ができるようになる。	支援者のスキルアップを行うための支援ができる。	その他	支援者支援を継続、複合多問題を抱える世帯への支援のスキルを標準化できるように、内容等を検討し、令和6年度に実施してください。